

岡山県感染症週報 2019年第41週 (10月7日～10月13日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2019年第41週(10/7～10/13)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第39週	5類感染症	百日咳 1名(幼児 女)
第40週	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 男) 梅毒 1名(40代 男) 百日咳 1名(小学生 女)
第41週	2類感染症	結核 7名(乳児 女 1名、幼児 女 1名、30代 男 1名・女 1名、 70代 男 1名・女 1名、80代 男 1名)
	3類感染症	細菌性赤痢 1名(20代 女)
	4類感染症	つつが虫病 1名(60代 男) 日本紅斑熱 2名(60代 女 1名、80代 男 1名) レジオネラ症 2名(70代 男 1名、80代 男 1名)
	5類感染症	アメーバ赤痢 1名(60代 男) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(70代 男) 急性脳炎 1名(幼児 女) 侵襲性肺炎球菌感染症 1名(60代 男) 水痘(入院例) 1名(70代 男) 梅毒 1名(40代 男) 百日咳 6名(中学生 男 1名・女 1名、高校生 女 1名、10代 女 1名、 40代 男 1名、80代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で17名(定点あたり0.20→0.20人)の報告があり、前週と同数でした。

○RSウイルス感染症は、県全体で109名(定点あたり2.19→2.02人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第42週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました(10月15日)。

1. [つつが虫病](#)は、2019年第41週に1名の報告があり、2019年第41週までの累計報告数は3名となりました。なお、2018年には2名の報告がありました。[日本紅斑熱](#)は、2019年第41週に2名の報告があり、2019年第41週までの累計報告数は3名となりました。なお、2018年には5名の報告がありました。マダニに咬まれないための予防対策についてはコラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」をご覧ください。
2. [百日咳](#)は、2019年第41週に6名の報告があり、2019年第41週までの累計報告数は353名となりました(2018年の同時期:136名)。年代別では小学生(163名、46%)、20歳以上(79名、22%)、0～6歳の乳幼児(70名、20%)が多く報告されています。地域別では、備中地域(100名、28%)、岡山市(89名、25%)、倉敷市(83名、24%)の順で多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児が患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。特に成人の感染時は、風邪などを見分けがつかないまま、感染が広がる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診することが重要です。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
3. [風しん](#)は、2019年第41週までに3名(第2週、第4週、第6週各1名)の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。全国の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. [インフルエンザ](#)は、県全体で17名(定点あたり0.20→0.20人)の報告があり、前週と同数でした。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2019/20年シーズンインフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
5. [RSウイルス感染症](#)は、県全体で109名(定点あたり2.19→2.02人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去10年間の同時期と比較して多くなっています。地域別では、岡山市(3.86人)、美作地域(3.17人)の順で定

点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化する恐れがあります。有効なワクチンはなく、症状に応じた対症療法が行われます。今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★★	RSウイルス感染症	➡	★★★★★
咽頭結膜熱	➡	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★★	伝染性紅斑	➡	★★★★
突発性発疹	➡	★★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	★
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移：
 大幅増加：大幅な増加 増加：増加 ほぼ増減なし：ほぼ増減なし 減少：減少 大幅減少：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

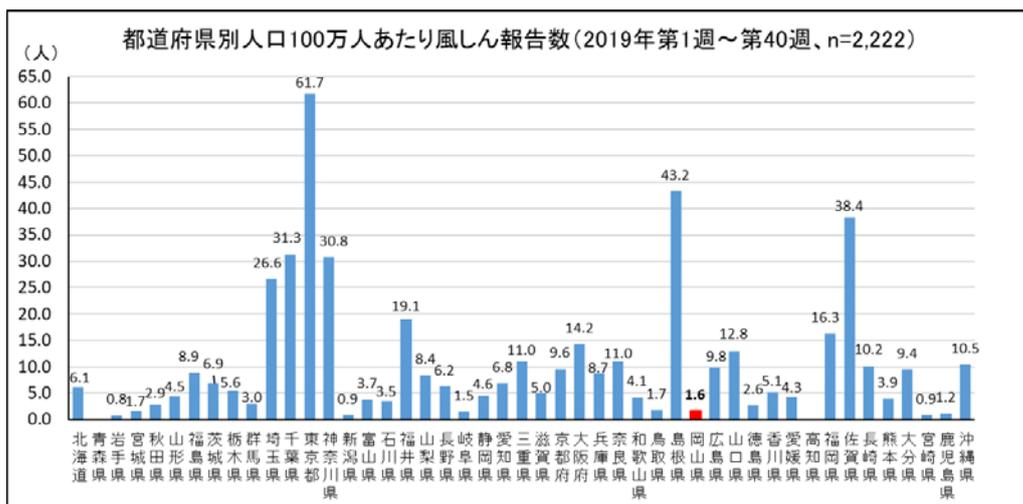
今週の注目感染症

☆風しん

症状等についてはこちらをご覧ください。
 ⇒『風しんについて』(厚生労働省)

●全国の発生状況

風しんは、2018年に全国的に流行しました(2018年の全国の風しん届出数：2,946名。2015～2017年の3年間では年間93～163名)。2019年に入ってから、全国では第1週から第40週の風しん累積患者報告数は2,222名となり、第39週の2,210名から12名増加しました。2019年第1週から第40週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で17.5人となり、東京都が61.7人で最も多く、次いで島根県43.2人、佐賀県38.4人、千葉県31.3人、神奈川県30.8人と続いています。患者の95%が成人で、男性が女性の3.6倍多く報告されており、特に30～40代の男性に多くなっています(男性患者全体の60%)。



●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

全国では2019年第4週、第17週および第24週に、各1名ずつの先天性風しん症候群の発生報告がありました。

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)

風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県 健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、全国的に始まりました(2019年4月から2022年3月31日まで)。

今年度は**40~47歳**の方を対象に、市町村から風しんクーポン券が送付されており、以下のリストに掲載されている医療機関で、無料で抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

☆この制度についての詳細はこちら

→ [風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)

岡山県の2019年4月~7月の風しんのクーポン使用実績は、**20%以下**となっています！

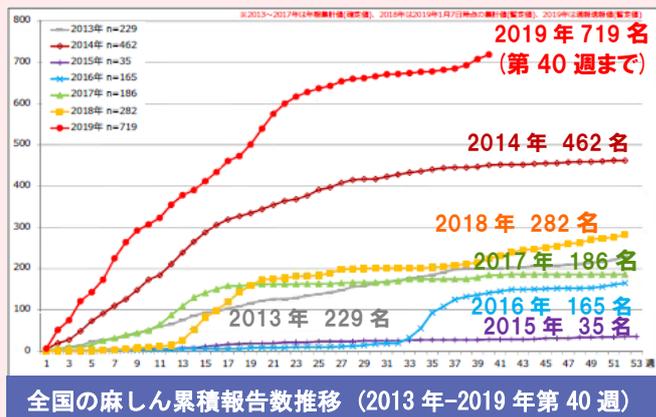
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！



麻しんに注意しましょう！

●全国的に麻疹（はしか）の感染患者が確認されています！

全国では、第40週に11名の発生報告があり、2019年の累積患者報告数は719名となりました。



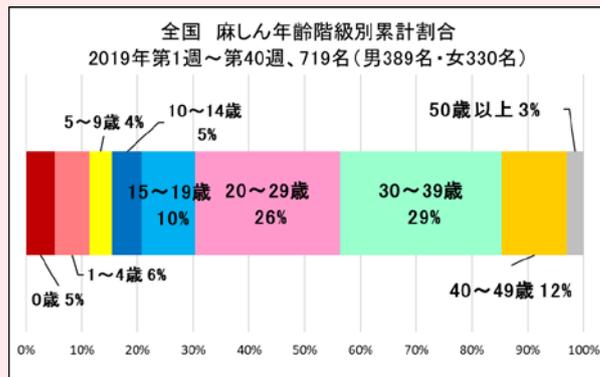
●麻疹はワクチンで予防できます！

麻疹は、2回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるとされています。1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

加えて、麻疹感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。

この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。



☆症状等については以下のリンクをご覧ください☆

[麻疹について \(厚生労働省\)](#) [麻疹とは \(国立感染症研究所\)](#)

[「妊娠している方へ麻疹（はしか）の流行についてのご注意」 \(日本産婦人科医会\)](#)

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

次の3原則に心がけ、食中毒予防に努めましょう。

➤ 「清潔」 (菌をつけない)

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」 (菌を増やさない)

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

➤ 「加熱」 (菌をやっつける)

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部まで十分に火を通し、生食は避けましょう。



© 岡山県「ももっち」

[食中毒予防の3原則 \(岡山県 生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、ツツガムシやマダニなどが知られています。

これらのダニの中には、つづが虫病、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。

春から秋(3~11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の
フタゲチマダニ♀

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジンを含むもの)を噴霧しましょう。
(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。
入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ~マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません~

- ◎容易に取り除くことができる場合(2、3日以内)は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合(数日以降)は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [ツツガムシ病とは](#) (国立感染症研究所)
- ⇒ [日本紅斑熱とは](#) (国立感染症研究所)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立感染症研究所)



ヤマアラシチマダニ

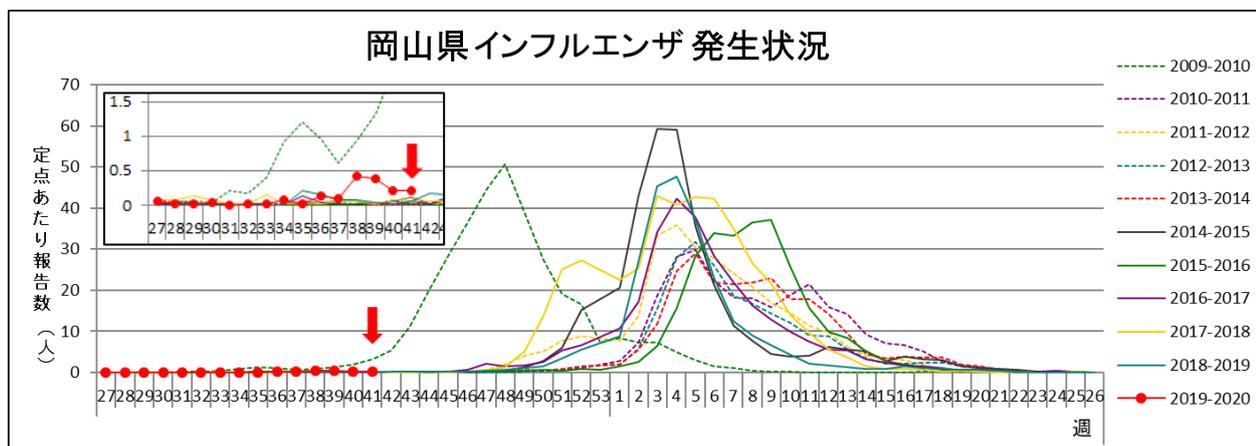
インフルエンザ週報 2019年 第41週 (10月7日～10月13日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で17名（定点あたり0.20人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第42週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました（10月15日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市および倉敷市で5名、美作地域で4名などの報告があり、県全体では17名（定点あたり報告数0.20人）の報告となっています。今シーズン（2019/9/2～）は、第36週（9/2～9/8）から散発的に患者が報告され、第40週（9/30～10/6）、第41週が各0.20人と、例年の11月上～中旬頃に相当する定点あたり報告数となっています。

全国の定点あたり報告数は、第40週は0.99人となりました。第39週の0.92人とほぼ同数であり、依然として流行開始の目安とされる定点あたり報告数1.00人に迫る報告数となっています。都道府県別では、沖縄県で定点あたり報告数が非常に多く（26.83人）、九州地方および東京都など9都県で定点あたり報告数1.00人を超えています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、岡山県ではすでに例年の11月上～中旬頃に相当する定点あたり報告数であることに加え、毎週学校等の臨時休業の報告があることや、入院患者についても、第41週までで5名の報告があるなど、流行が早まるおそれがあります。帰宅後や食事前の手洗いの励行等、感染予防に努めましょう。

[IDWR速報データ 2019年第40週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザQ&A（厚生労働省）](#)

[インフルエンザ 関連情報 2019/20 シーズン インフルエンザワクチン株（国立感染症研究所）](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	17	➡	備 中	患者数	2	⬆️
	定点あたり	0.20			定点あたり	0.17	
岡山市	患者数	5	➡	備 北	患者数	0	➡
	定点あたり	0.23			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	5	➡	真 庭	患者数	0	➡
	定点あたり	0.31			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	1	➡	美 作	患者数	4	➡
	定点あたり	0.07			定点あたり	0.40	

【記号の説明】前週からの推移 ⬆️：大幅な増加 ➡️：増加 ➡️：ほぼ増減なし ⬇️：大幅な減少 ⬇️：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

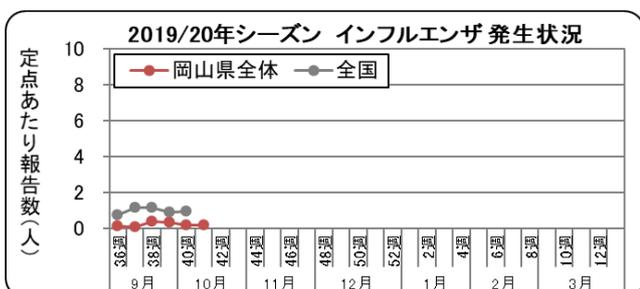
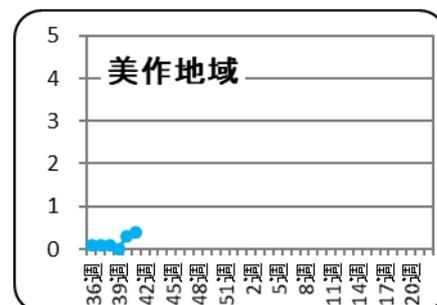
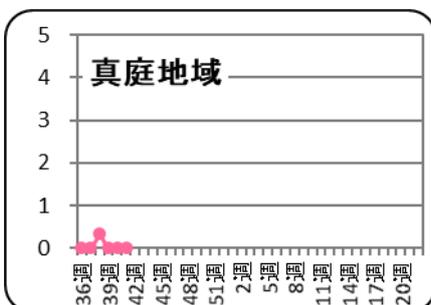
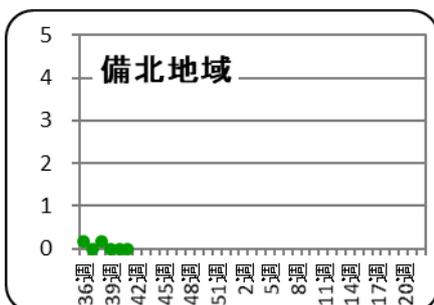
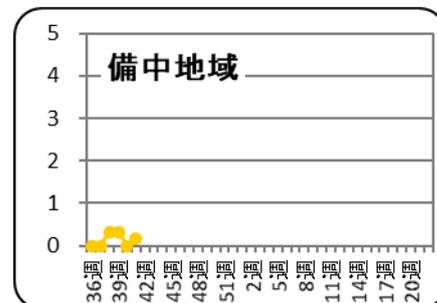
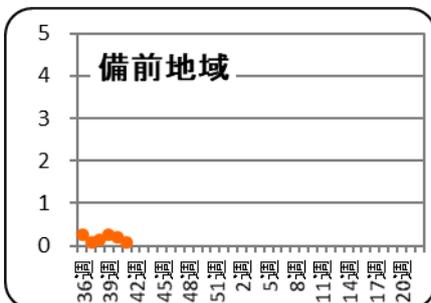
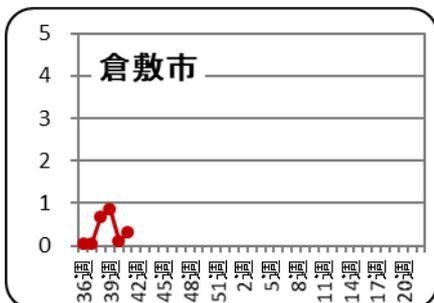
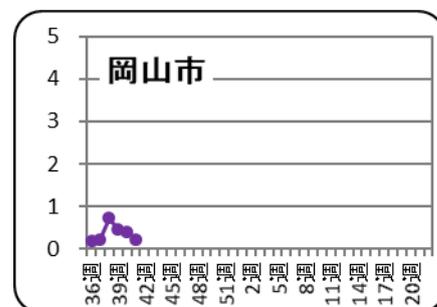
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0

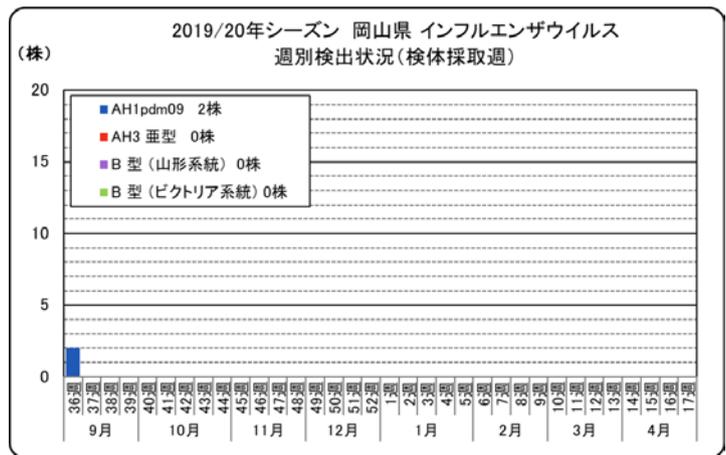


全国集計 2019 年第 40 週（9/30～10/6）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 0.99 人となり、前週（0.92 人）とほぼ同数でした。都道府県別では、沖縄県（26.83 人）、鹿児島県（3.87 人）、佐賀県（1.72 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。9 都県で流行開始の目安（定点あたり 1.00 人）を超えています。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

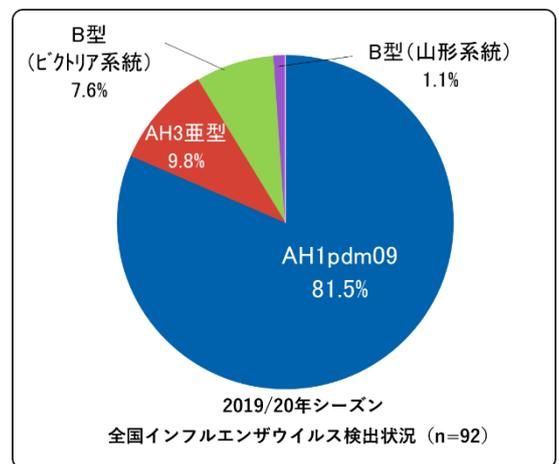
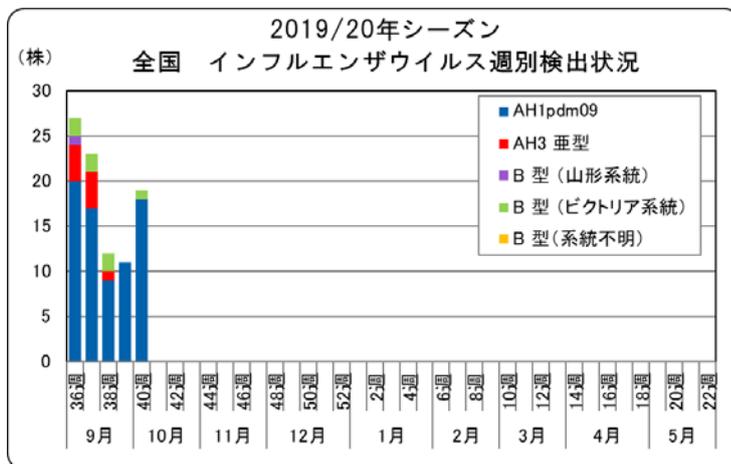
2. インフルエンザウイルス検出状況

2019年第41週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは2株で、全てAH1pdm09です。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が75株、AH3亜型が9株、B型が8株（ビクトリア系統7株・山形系統1株）となっています（10月15日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)



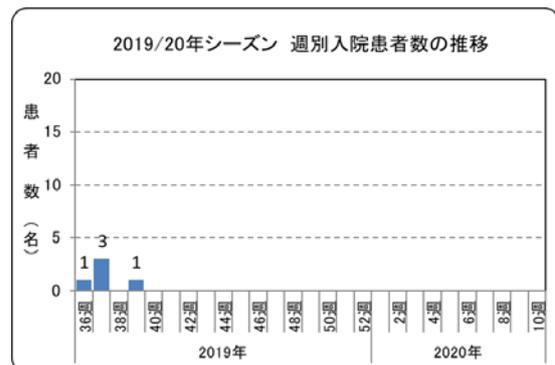
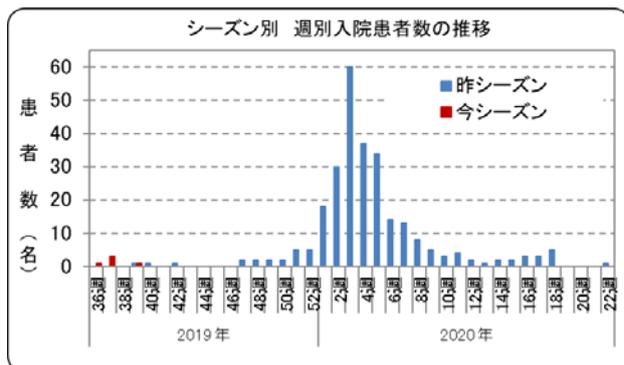
3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、1施設でありました（津山市）。

4. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【2019年9月2日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数			1	1	1				1			1	5
ICU入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部CT検査(予定含) *					1								1
頭部MRI検査(予定含) *					1								1
脳波検査(予定含) *													
いずれにも該当せず			1	1					1			1	4

* 重複あり

◆◆インフルエンザの予防接種はお早めに！◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。
 例年本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。
定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。 定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

- ◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。（特に今シーズンは、例年に比べ全国的に早い流行となっているため、ワクチンの供給が間に合っていない場合も考えられますので、必ず事前に問い合わせるようにしてください。）
- ◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2019年 41週(定点把握)

(2019/10/07~2019/10/13)

2019年10月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	17	0.20	5	0.23	5	0.31	1	0.07	2	0.17	-	-	-	-	4	0.40
RSウイルス感染症	109	2.02	54	3.86	21	1.91	2	0.20	12	1.71	1	0.25	-	-	19	3.17
咽頭結膜熱	25	0.46	16	1.14	2	0.18	-	-	-	-	4	1.00	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	7	0.50	6	0.55	4	0.40	6	0.86	1	0.25	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	177	3.28	86	6.14	46	4.18	25	2.50	4	0.57	5	1.25	6	3.00	5	0.83
水痘	6	0.11	3	0.21	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	73	1.35	22	1.57	31	2.82	3	0.30	12	1.71	-	-	4	2.00	1	0.17
伝染性紅斑	25	0.46	4	0.29	2	0.18	5	0.50	3	0.43	10	2.50	-	-	1	0.17
突発性発疹	16	0.30	6	0.43	4	0.36	1	0.10	3	0.43	-	-	1	0.50	1	0.17
ヘルパンギーナ	13	0.24	4	0.29	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 41週(発生レベル設定疾患)

(2019/10/07～2019/10/13)

2019年10月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	17	0.20	5	0.23	5	0.31	1	0.07	2	0.17	-	-	-	-	4	0.40
咽頭結膜熱	25	0.46	16	1.14	2	0.18	-	-	-	-	4	1.00	-	-	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	7	0.50	6	0.55	4	0.40	6	0.86	1	0.25	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	177	3.28	86	6.14	46	4.18	25	2.50	4	0.57	5	1.25	6	3.00	5	0.83
水痘	6	0.11	3	0.21	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
手足口病	73	1.35	22	1.57	31	2.82	3	0.30	12	1.71	-	-	4	2.00	1	0.17
伝染性紅斑	25	0.46	4	0.29	2	0.18	5	0.50	3	0.43	10	2.50	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	13	0.24	4	0.29	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	3	0.50
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第41週 2019/10/07～2019/10/13)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	17	-	2	2	1	-	-	1	-	1	1	1	2	-	3	1	-	1	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	109	19	28	41	6	12	2	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	25	1	2	6	3	3	2	2	1	1	-	1	1	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	-	-	-	1	3	4	4	7	4	3	4	2	2
感染性胃腸炎	177	4	11	27	24	9	11	14	13	9	7	6	20	7
水痘	6	-	1	1	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-
手足口病	73	2	7	18	11	8	8	8	4	3	1	-	2	1
伝染性紅斑	25	-	1	2	3	1	5	5	1	-	3	2	1	1
突発性発疹	16	-	4	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	13	-	-	3	7	2	1	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

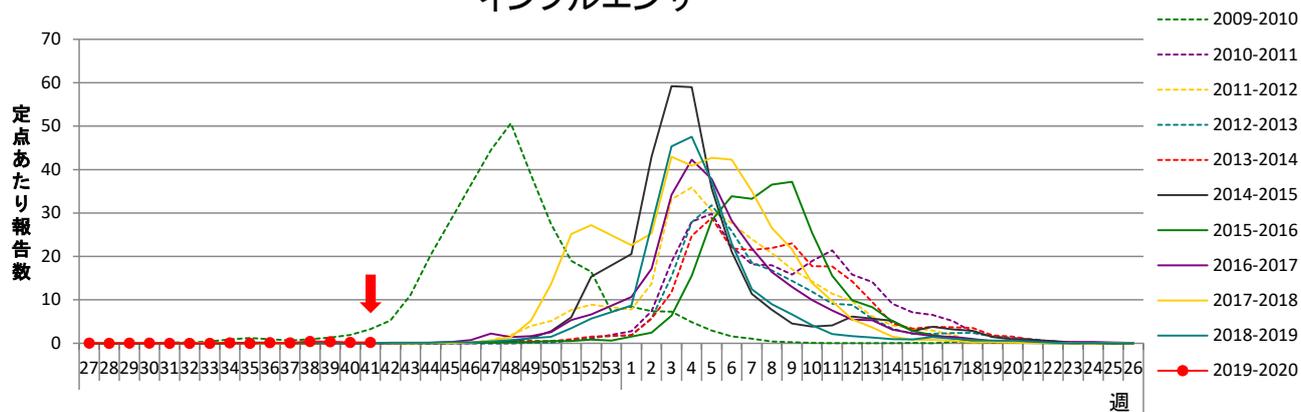
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

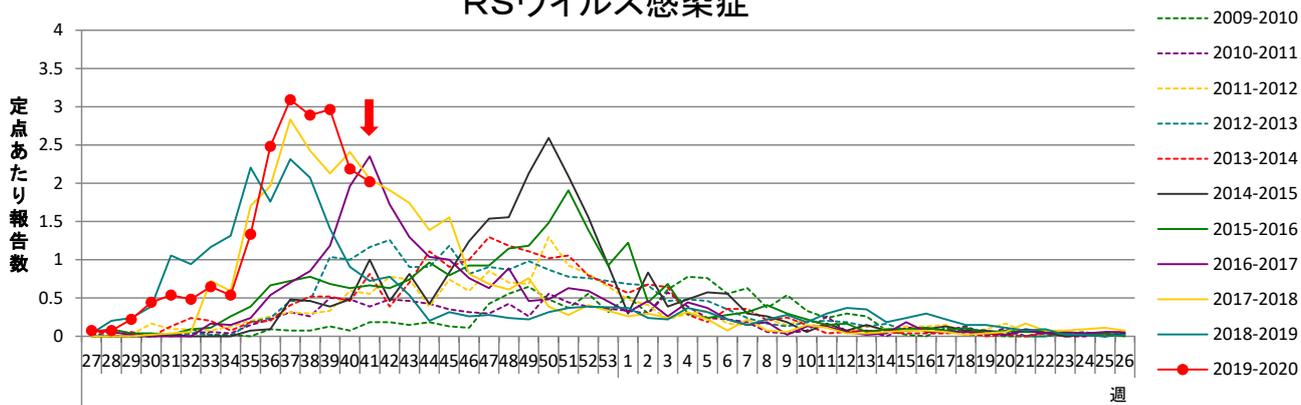
2019年 41週

分類	疾病名	2019			疾病名	2019			疾病名	2019		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	7	231	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	1	4	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	51	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	1	3	2
	デング熱	-	6	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	2	3	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	1	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	49	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	12	15	ウイルス性肝炎	-	9	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	27
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	2	3	急性脳炎	1	16	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	4	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	6	14	後天性免疫不全症候群	-	7	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		1	32	45	水痘(入院例に限る。)	1	8	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		1	148	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	百日咳	6	353	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

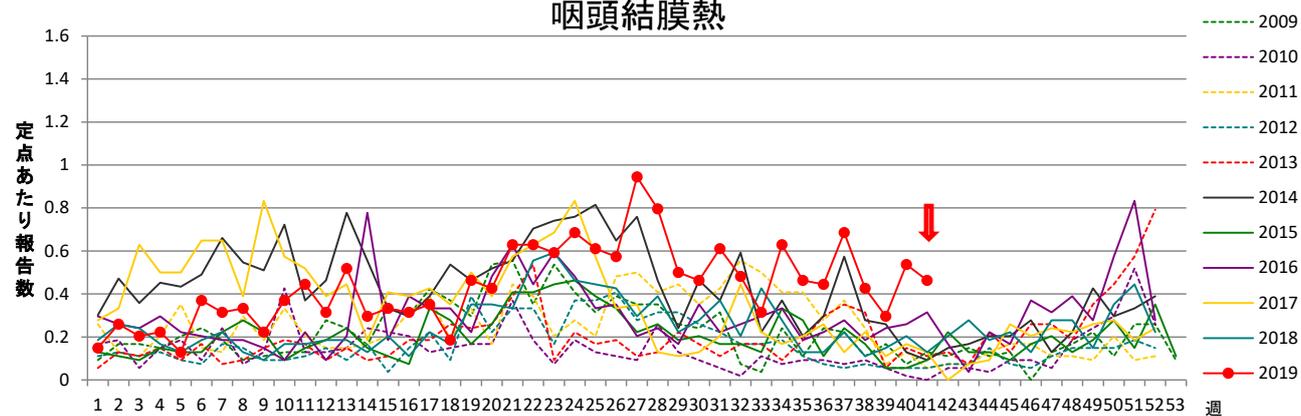
インフルエンザ



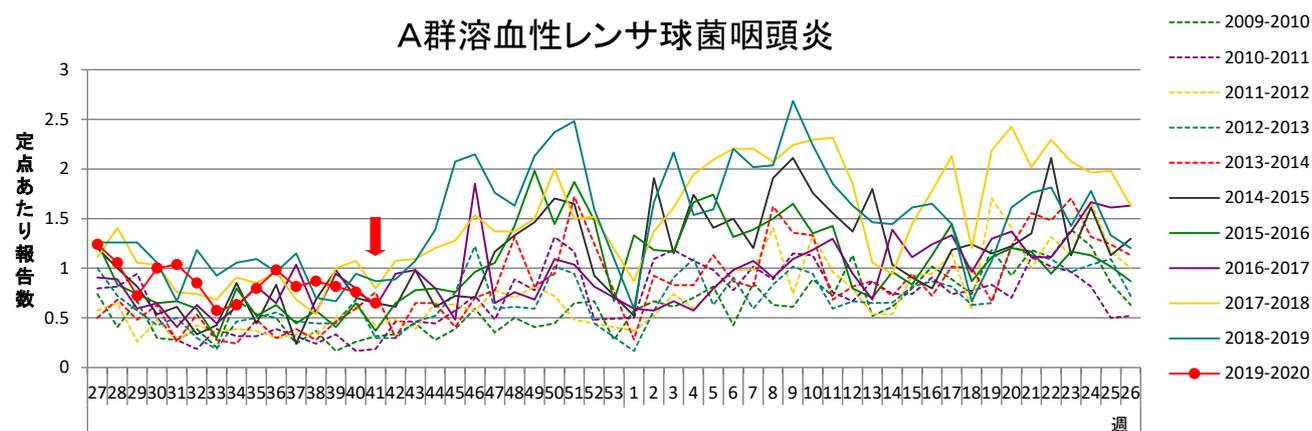
RSウイルス感染症



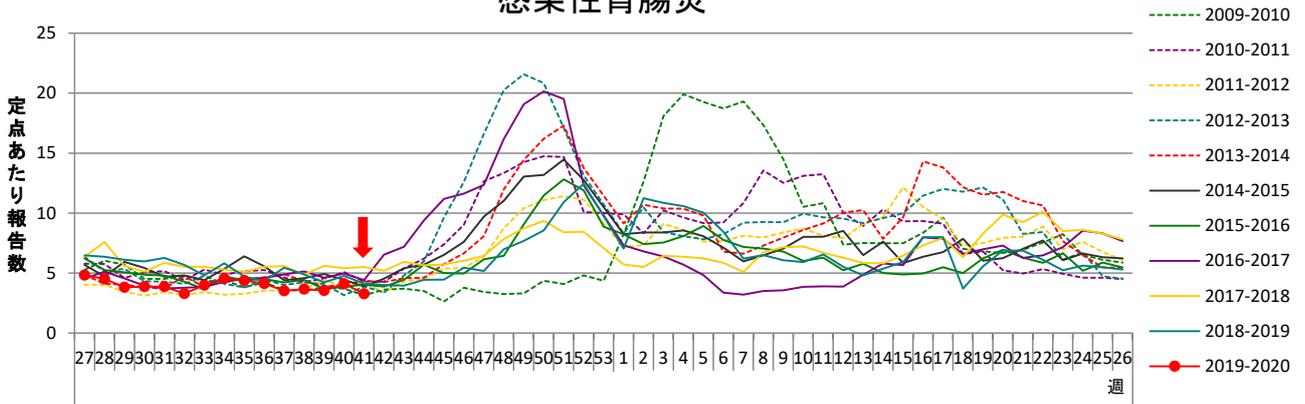
咽頭結膜熱



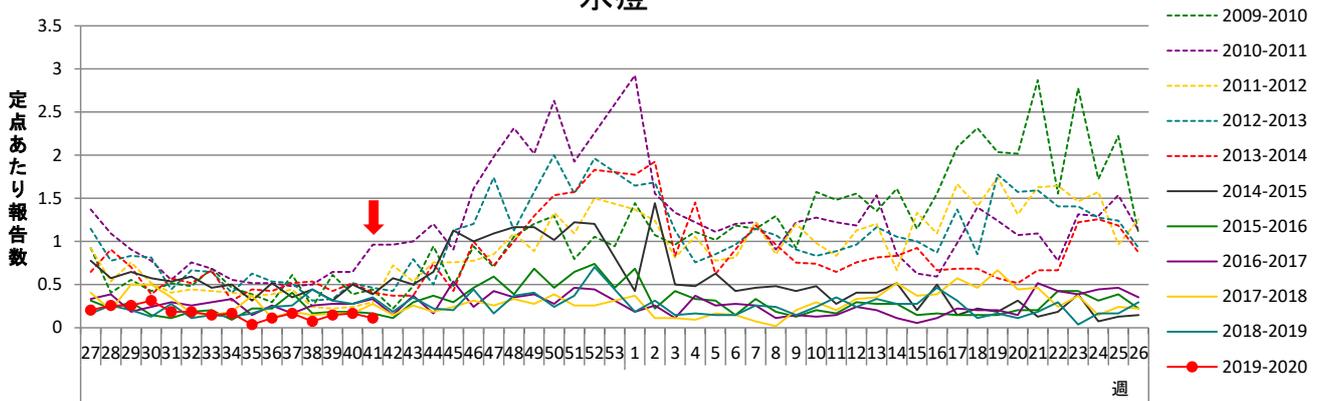
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



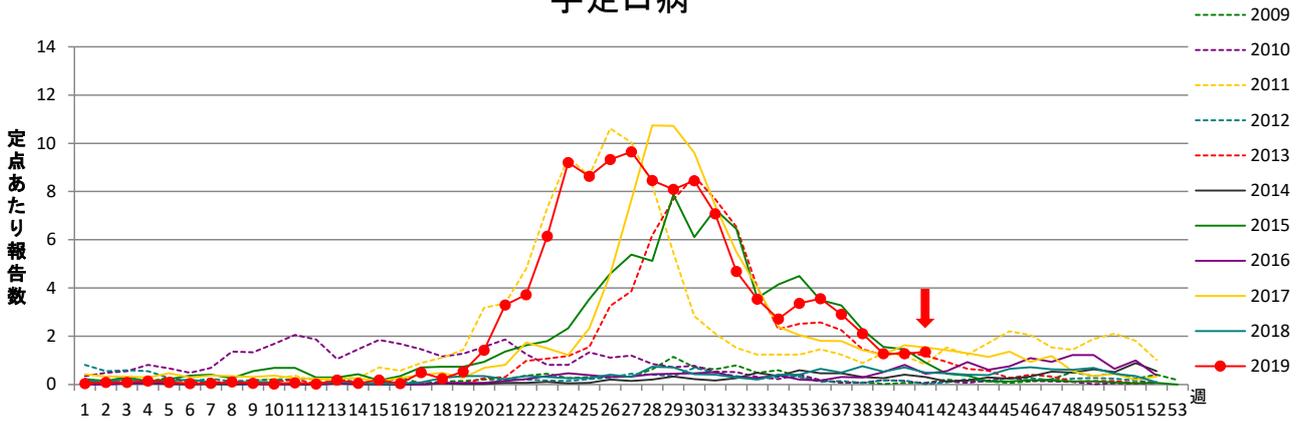
感染性胃腸炎



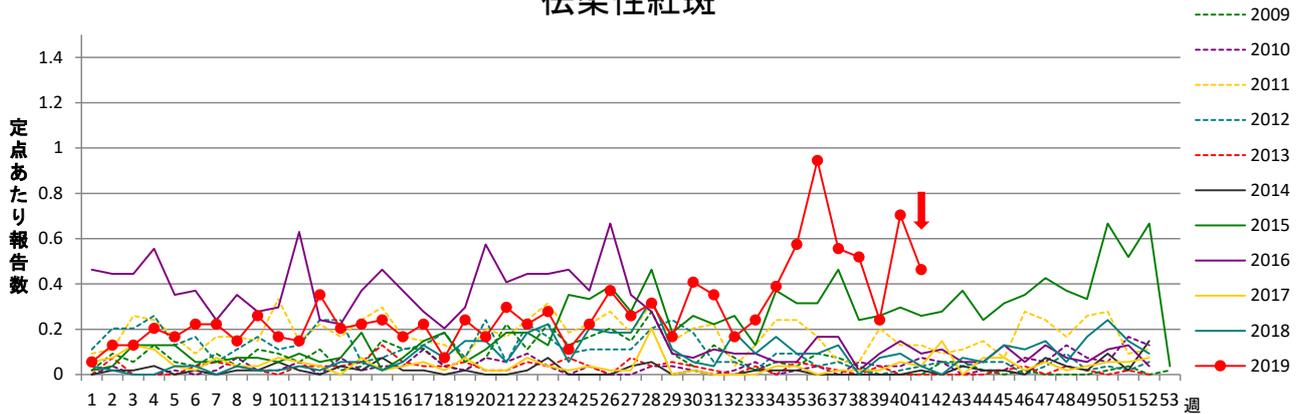
水痘



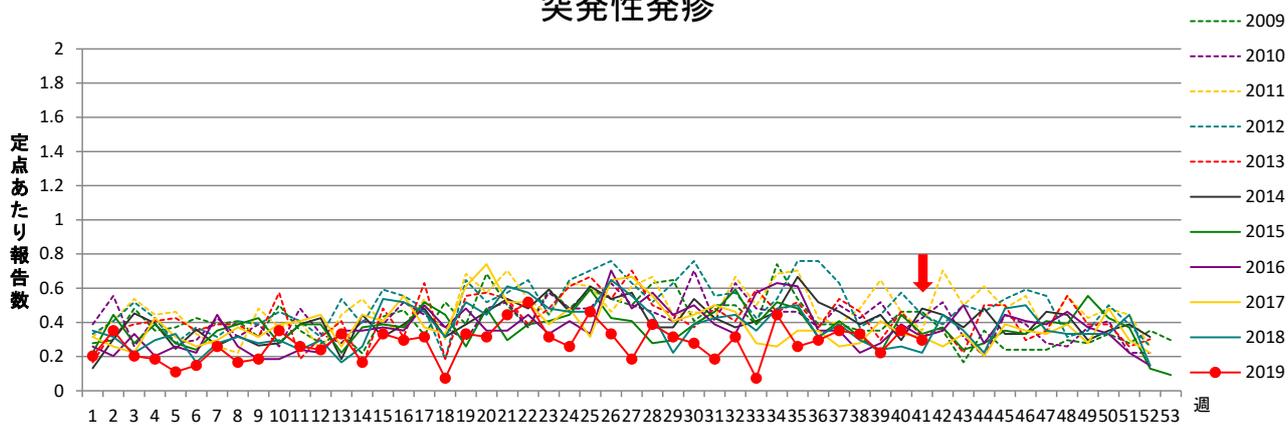
手足口病



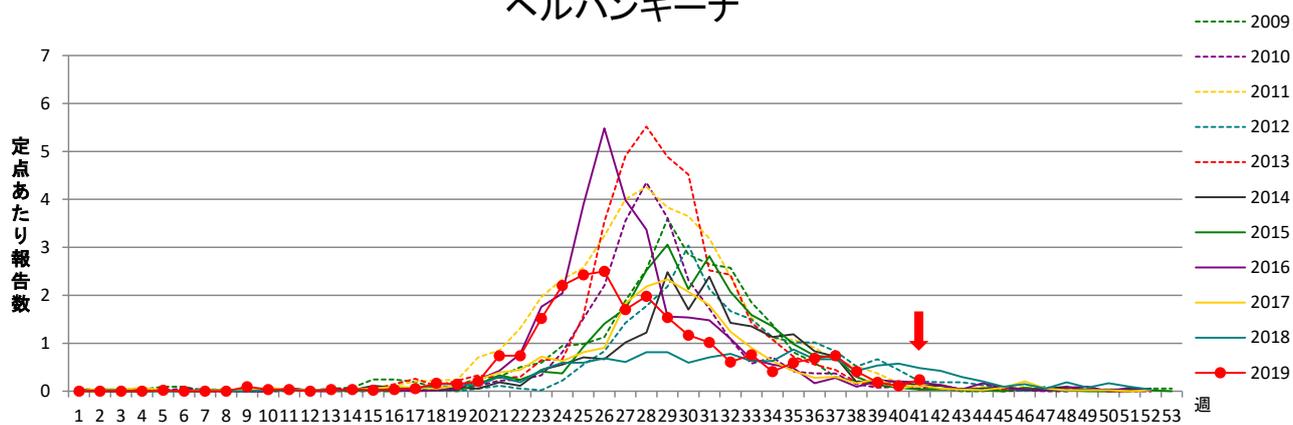
伝染性紅斑



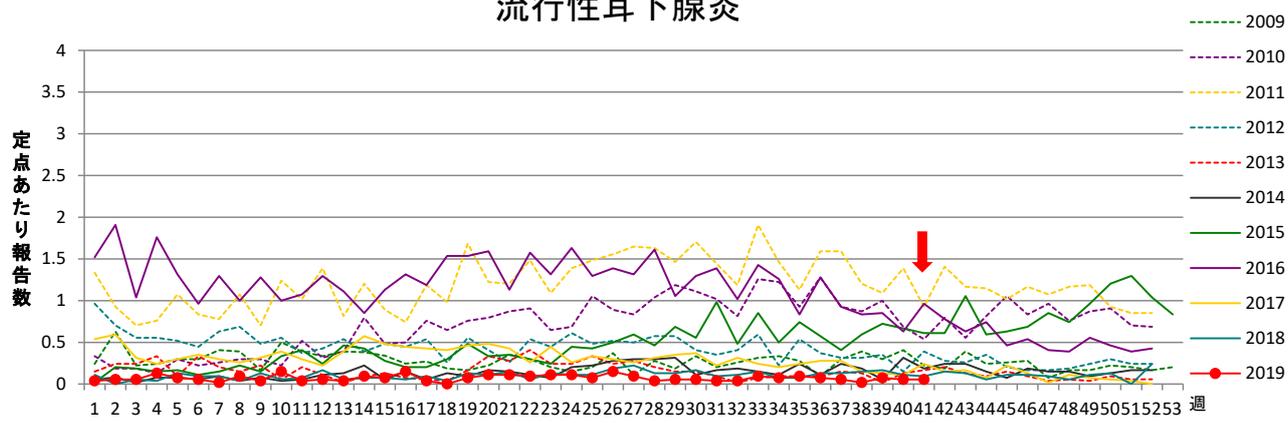
突発性発疹



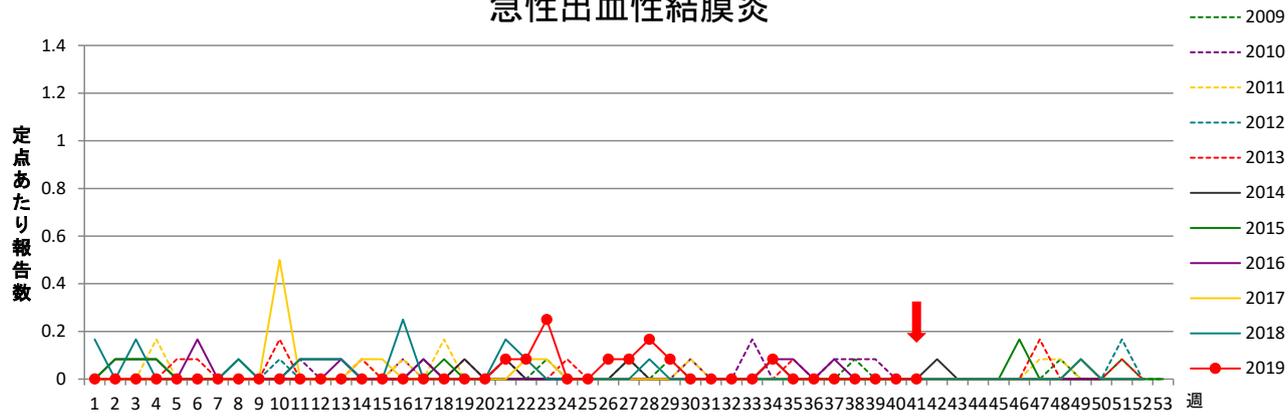
ヘルパンギーナ



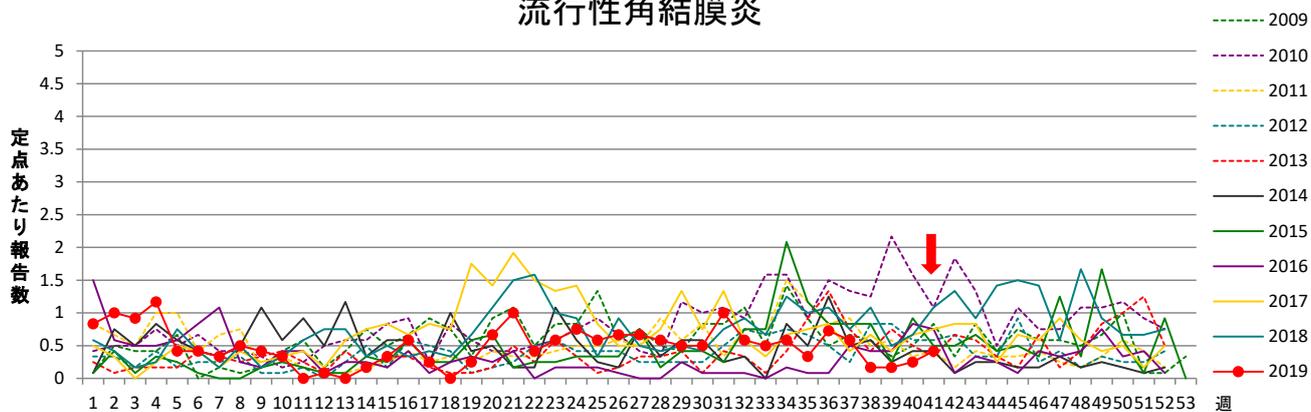
流行性耳下腺炎



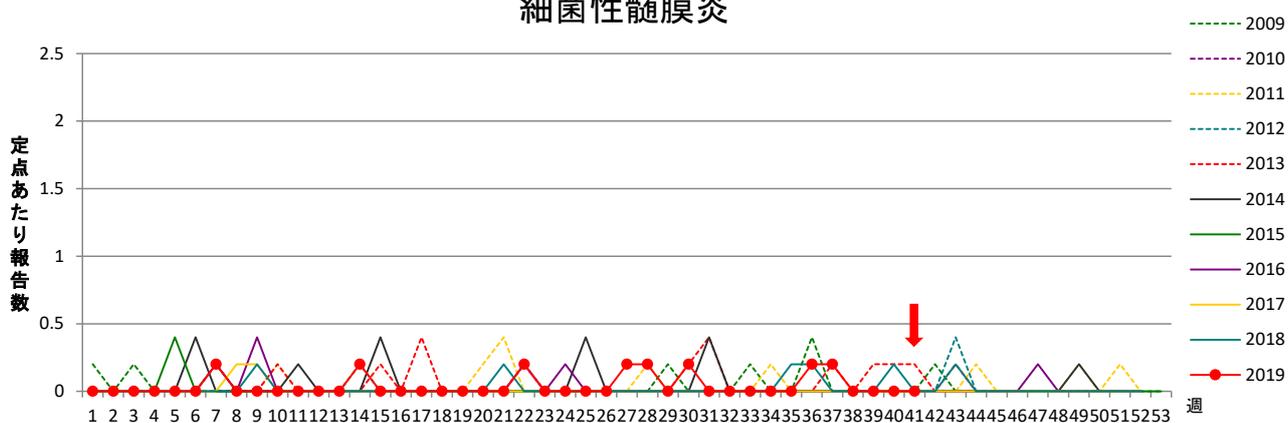
急性出血性結膜炎



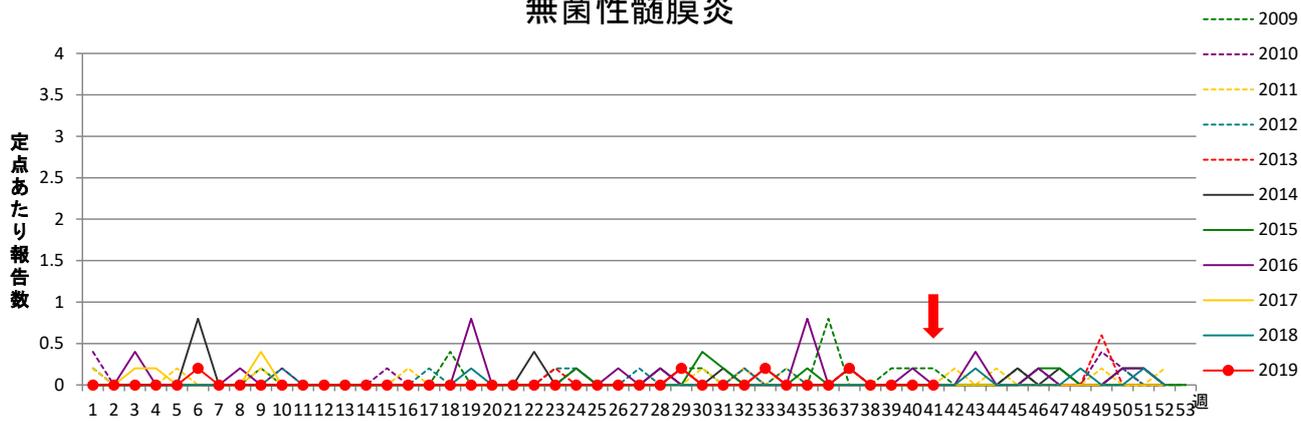
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎

